

【差別と偏見】

わたし達につきまとう先入観。わたし達のココロは『先入観』を抱くようにできています。一言に先入観と言っても、非常に奥深いですが、ここで先入観の1つとしてよく登場する『ステレオタイプ』について記述いたします。

あなたには、地域毎に人の傾向性をざっくりと理解する意識はありませんか？

名古屋人は基本ケチで見栄っ張り、関西の人は笑いに厳しい自虐的な笑いが有効、東京の人はクール、東京の人は情報が多いからそう簡単には飛びつかないしすぐに新しい情報が入ってそっちに行ってしまう、九州人は人情に厚くて頑固、九州人は熱しやすく冷めやすい、東北人は自分達が田舎者だと思っていて疎外感を抱いている、地方の人は新しいモノや人に対して最初は抵抗を示すけど、理解したら長く続く。

さらに国で言うと、ドイツ人は職人氣質、アメリカ人は大ざっぱ、中国人はがさつ、日本人はおとなしい、イタリア人は陽気、イギリス人は皮肉っぽい、など…  
挙げだしたらきりがありませんが、私たちはついつい先入観で人を判断してしまいます。

なぜわたし達がこのような先入観で人を判断してしまうのか？それは、私たちが「ステレオタイプ」をもっているためです。

私たちは、社会生活を営むにあたり、国や組織・年齢・性別などさまざまな社会的カテゴリーに属しています。そして、それぞれのカテゴリーに属する人たちは共通の特徴をもっているものだと信じ込んでいます。そういった特徴を単純化した概念のことを「ステレオタイプ」と言います。基本、多くの人に浸透している先入観、思い込み、認識、固定観念、レッテル、偏見、差別を差した言葉です。

ステレオタイプとは、ギリシャ語の「stereos」と「typos」という二つの語を合わせた言葉です。stereosとは、印刷に用いる金属のステロ版のことです。つまりステレオタイプとは、「ステロ版という型を使って作られたかのように同じもの」という意味になります。日本語では、古く使われていた「紋切り型の…」などが意味として近いものです。

社会において、同じような考え方や見方がパッケージ化されて共有されているのですが、なぜそのような思考や見方が正しいと確信しているのかということについては、マスコミ・メディアや特定されない誰かを差して「みんながそう言っているから」などと、そのことについて吟味することなく、そのまま疑いもせずに取り入れて鵜呑みにしてしまっていることが一般的です。そのため、ステレオタイプには、何の客観的証拠もなく、個が持つ思想や哲学に対する理解も浅く、複雑な物事を単純化している概念のため、ステレオタイプで思考、認識している本人は、理解していると錯覚していますが、明らかに迷妄です。

現代社会は非常に複雑です。特に大脳新皮質が発達した人類は、感情にせよ、思考にせよ他の動物のように竹を割ったように割りきれません。特に昨今は様々な人の様々な価値観

## 脳大成理論 2-1

が混在しています。なおかつ、それらは基本的に尊重されるべきだという不文律が定着しています。

インターネットやSNSの発達により加速している風潮だとも言えますが、1人1人が自分の意見や考えを手軽に世界中に発信できてしまう時代です。さらにインターネットの書き込みで特に誹謗中傷は、その実状がしっかり把握されないまま法整備もついていかず、勝手気ままにニュースに対して意見を書き込んだり、またSNSにコメントしたりと「炎上」というワードがもはや一般語になりつつあり、著名人の発言や行為がSNS上で誹謗中傷に溢れたことがテレビのニュースになるくらいです。

現代社会において、安全が脅かされているような感覚を強く感じている方も少なくないでしょう。現実的に、あなたに不利益や危害をあたえる好ましくない存在があなたの周りにいることでしょう。その中で、上手く振る舞って生き延びていくためには、自分自身と周囲との関係性をすばやく効率的に把握する必要があります。そのために、わたし達は社会で共有されている先入観や固定概念、すなわち『ステレオタイプ』を利用しています。

ステレオタイプは、必ずしも正確な情報ではありません。例えば統計は、個の傾向性が無視されてしまいます。全体指数を表すのが統計ですので、統計的には決して間違っていないのですが、それが個に当てはまるかと言うとそうではありません。上記の文章でいうなら、『関西人は笑いに厳しい、ユーモアが好き』といった概念はステレオタイプですが、もちろん関西人の中でそうでない人は間違いなくいます。

わたし達はステレオタイプによって、わずかな情報から、ある個人の特徴をすばやく判断しているのです。そういった意味ではとても便利な認識の枠組みなのです。

私たちがステレオタイプを日常生活の中で強く意識することはほとんどありません。しかし、ステレオタイプ通りの情報に接すると、私たちは無意識にそこに目が向いてしまいます。

例えば「ビール好きのドイツ人に会うと、すべてのドイツ人がビールが好きなのだ」と強く思ってしまいますし、がさつな中国人に会うと中国人すべてががさつなんだと強く思います。

これを心理学では「選択的知覚」と言います。

選択的知覚とは、多くの情報の中で、その人にとって重要な情報を選択して知覚するココロの作用です。「カクテルパーティー効果」「カラーバス効果」「ストロープ効果」などのココロに影響を与える効果を作ります。

その一方で、ビール嫌いのドイツ人と出会うと「変わったドイツ人だな」と思ったり、笑いにうとい関西人に逢うと「関西人なのに以外だな」など思ったり、ステレオタイプに合致しない人や行動は例外とみなします。

これを心理学では「サブタイプ化」と言います。

## 脳大成理論 2-1

選択的知覚とサブタイプ化を繰り返すうちに、自分の中に形成されていたステレオタイプが維持され、更に強化されていくのです。

「選択的知覚」と「サブタイプ化」がおきるメカニズムは次の四つの「情報バイアス」によって説明することができます。

一つ目は「情報取得バイアス」です。

これは、ステレオタイプと合致する情報を選んで取得しようとする心理です。

二つ目は「記憶バイアス」です。これは、ステレオタイプと一致する情報は記憶されやすいという心理です。

三つ目は「解釈バイアス」です。これは、ステレオタイプと矛盾する情報に触れても、ステレオタイプを守る方向に情報を解釈するという心理です。

そして四つ目は、「信念維持（確証）バイアス」です。これは、ステレオタイプを確認できると心地よさが得られるという心理です。

ステレオタイプは、私たちが複雑な社会の中で生き延びるための手段の一つとも言えます。しかし、ステレオタイプはわたし達の考え方や行動・態度を確実にかたよらせていきます。そしてそれは「偏見」にまで発展していきます。さらに、偏見にもとづき他者に不利益を与える行為は「差別」です。

大きな問題になっていないかも知れませんが、わたし達は、偏見と差別のうちに目の前の人を見てしまっているのです。ステレオタイプは、わたし達が社会に生きている以上、誰しもが例外なく持っていると言えます。

私たちは特定のステレオタイプに従って他者を判断していないかどうかを注意深く自分の思考や認識を振り返り、検証する必要があります。自分の認識がステレオタイプに溢れていると自覚できた時、同時に世の中に偏見や差別が溢れている事にも気付くことでしょう。世の中に溢れている偏見や差別を回避するためには、相手をあくまで個として捉え、客観的に、より正確に理解しようと務めたり、または、あなたの目の前の人々が属する複数の社会的カテゴリーに目を向けたりするなどの努力をすることが大切なのです。

そして、目の前の人をステレオタイプにとらわれることなく見つめることが出来たとき、そこから真の関係が生まれるのです。